



# 令和元年度 阿佐ヶ谷中学校 第8回学校運営協議会 会議録

日時 令和2年1月11日(土)

10:00～11:40

会場 阿佐ヶ谷中学校 校長室

出席者

《協議会委員》 石井 良典  
岩間 功  
大石 秀明  
河村 正明  
鈴木 政俊  
武田 裕美  
諸橋 記子  
柳澤 正  
横山 智彦

《阿佐ヶ谷中学校事務局》

佐々木 啓之(副校長)  
長谷川 祐子(嘱託事務)

校長 小澤 雅人



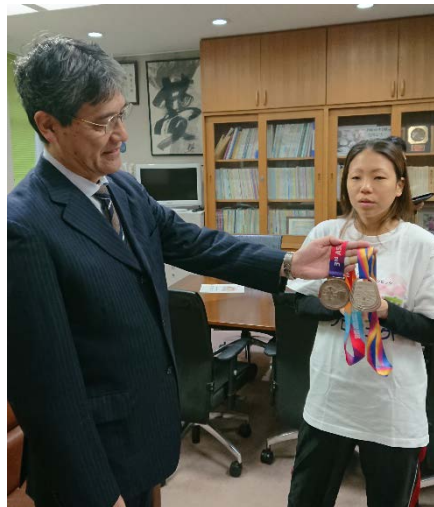
小澤 明けましておめでとうございます。今日から新たに阿佐ヶ谷中学校の学校運営協議会が始まります。辞令をお渡しいたします。これから2年間よろしくお願いいたします。

鈴木 教職員の皆さんとの意見交換会もありますので、またこれから仲良くやっていきましょう。

小澤 今日教育委員会の企画”夢・未来プロジェクト オリンピック・パラリンピック教育推進授業”ということで、1時間目にパラリンピックの走り幅跳びの選手である高田千明さんに来ていただいて、インタビュー形式でお話を伺いました。当日はご主人の高田裕士さんもいらして、伴走者(コーラー)とどのように走るのかを実際に見せていただきました。高田千明さんは視覚障害全盲クラスの走り幅跳びと短距離を専門にしています。世界パラ陸上選手権とアジアパラ競技大会走り幅跳びの銀メダリストです。リオのパラリンピックでは8位に入賞しました。高田裕士さんは聴覚障害者のオリンピック『デフリンピック』の陸上選手です。

講演前に校長室でメダルを見せてもらいました。オリンピックのメダルと違うのは、振ると音がするようにできていて、金・銀・銅メダルは違う音がするそうです。

2時間目からは2年生を対象に校庭で目隠しをして走るデモンストレーションを行います。



小 澤 2月にフランス・モナコ・モザンビークなどフランス語圏のオリパラ参加国との交流を考えています。諸橋さんがコーディネイトしてくださった企画でフランスに触れる機会を設けてもらいました。

8月7日の観戦チケットをもらえるので、近代五種の事前学習をしたいと思うのですが、あまり情報がありません。今それで少し苦勞しています。

大 石 それは女子の近代五種ですか?会社にやっている人がいます。確か全日本の個人3位だと思います。詳しく聞いてみます。

柳 澤 それはいいですね。事前に勉強していくのは良い事です。

小 澤 近代五種を見るのは初めてです。すべての競技を見るのは無理なので、一部を見て学校に戻ってきたいと思っています。

鈴 木 学校によってはオリンピックを見に行かないところもあるようですが、阿佐中は行くんですか?

小 澤 色々考えてみたのですが、これを逃すと日本でオリンピックを見られるチャンスはなかなかないので、できるだけ行きたいと思っています。

杉並区を聖火が通るようなので、その時は吹奏楽や木遣りなども披露できるように考えている所です。

今月は2学年がスキー教室ですが、雪が少ないというので心配しています。現在のゲレンデの状況は通常の7割りが稼働しているとのことです。

3学年は早いところは来週末から入試、都立は1月25日26日が推薦入試になります。埼玉などはもう始まっています。全国の高校進学率はほぼ100%ですが、そのうちの7%位は通信制の高校に行きます。中学には在籍だけして通信サポート校に行く、何でもネットでできる時代になりました。今後こうした形が増えるかもしれません。本校でもweb教材を使ってもらい、学校には通わなくても卒業ということも可能です。今年は都立の希望者が減りました。今後の入試も変わっていくかもしれません。ネットで学校を卒業してゲームクリエイターを希望するという例も多いようです。

渡 辺 多くの仕事では表面的の人しか見えていないが、どの仕事も色々な人が関わっているという事を教えてあげる必要がありますね。

小 澤 おやじの会などの協力で職業の話をしてもらうのは大事な事ですね。小学生の将来になりたい職業ランキング1位は最近、大工さんからYouTuberになりましたね。



- 小澤 では次に今日の議題として話を進めていきたいので、教育調査の結果をご覧ください。No.36以降は毎年行っている各教員の評価も載っています。
- 12月の三者面談時にその場で調査のお願いをするようになってから、8割近くの回答率になってきました。生徒にも回答してもらっています。
- 鈴木 木澤 ICTに少し問題があるようですね。学校だよりはあまり読まないのかな？
- 小澤 学校だよりは保護者まで届いていない場合があると思います。生徒には渡しているのですが。どちらかという、直接かかわってくる学年だよりはよく見ているようです。かつて学級だより返信欄をつくってみたが、ほぼ帰ってこなかったですね…。
- 渡辺 朝読をやっているのを知らない人が多いようですね。せっかくやっているのに知られていないのでは？先生方のモチベーションも高くなりませんね。
- 小澤 やっている部分については認識されていると思う。朝読をやっていること自体は知っているが、何をしているんだかわかりにくいんだと思う。今、朝読から朝学習というものにシフトしています。
- 渡辺 特支と通常学級の隔たりを感じます。
- 小澤 東京都の特支は別の採用なんですけど、同じ所属の中でやっている。杉並は教科枠で動いているので、そう感じられるのかもしれませんが。これから子どもたちの交流だけでなく、教員同士の活動もしていきたい。
- 特支の設置校でないところには特別支援教室ができました。特別ということではなくその子に必要なものを与えてあげたい。阿佐中の特別支援教室の利用は3名ですが、来年度は7名になる予定です。
- 石井 特別支援教室はまだ始まったばかりで学校によって温度差があるようだ。担当の先生と一緒にやってくれるところもあれば、そうでないところもある。
- 小澤 発達障害をもった生徒を教育する特別支援教室ができて2年目です。都ではまだ始まっていないところもある。大学で専門的に学んできた人たちがやっとその知識を生かしていけるようになってきたが、思ったより利用者が多い。
- 石井 そのため専門的な知識がなくてもそこに採用されてしまうケースもあります。
- 鈴木 木澤 アスペルガー症候群などは発達障害にあたりますか？
- 小澤 自閉症・ADHD・LDAなども入ります。
- 鈴木 木澤 医師の診断が要件になりますね。
- 小澤 そうです。知的障害と発達障害は別のものです。複合的な障害もあるので、個別に教員が関わらないといけません。
- 大石 一人の先生で見るのは大変ですね。
- 小澤 専門的なスキルをもった教員があまりいません。
- 石井 医者でもまだ専門的にはわかっていない人もいます。

小 澤 発達障害についてはまだまだ知られていませんね。令和3年から新しい教育によるシステムになる。10年後には特別支援教室がどうなっていくのか考えて構築していく必要があると思う。次の学習指導要領を作っていくために整理するスタートの年になると言えます。働き方改革もすぐにはできない。これから10年後に向けて決めていく事です。CSや支援本部ができて、PTAおやじの会が教員の大変な所を支援してくれています。それらの協力をもとにこれからうまく整理していく方法を考えなくてはならない。教育調査というのは学校の活動を整理していく、何が必要か、どんな支援が必要かなどの資料になってくれたらよいと思います。

渡 辺 人を増やす手立てはないのでしょうか。見る人数が少なくなったが細部まで見なくてはいけなくなった。授業の一部をサポートする手立てはないのでしょうか。

小 澤 人数は格段に増えてはいます。今は補助教員・学習支援教員若手指導育成教員などがいます。青山学院の生徒さんにも来てもらっています。学校事務補助という採用もできます。人は確実に増えているので、それをもう一度検証してみる必要がありますね。

渡 辺 テスト問題の共有化は難しいですか?PCに入れておいてそこから使うとか…。  
小 澤 教員独自のスタイルもあるので難しいようです。まだまだ共有という方向にはいかない。定期試験は塾にデータが行ってしまうので、同じものは使いません。

その教員の得意なものが共有できると良いのですか。K中はそれを違う形でやっているのだと思います。

横 山 教員経験の面からテスト問題を共有するよりも教員同士の関係を考えると、自分で作った方が早いと思ってしまう。

渡 辺 自分で作った方が早いものもあれば、サンプル集の様に他人が作ったものを利用する方が早いものもある。選択する余裕があると良いですね。

小 澤 それがアウトソーシングですね。毎年入学した時に同じテストをするというのでもいいかもしれません。テストだけでなく部活にもその考えが取り入れられると良いですね。そうしないと教員の負担が減っていかない。

柳 澤 記述式は採点も難しいですね。

横 山 一問につき三人で見ないと正確な採点にはなりません。3倍の時間がかかります。

小 澤 採点しやすさからマークシートになっていったが、”考えて論じる”という事を主にしていかないと教育がだめになる。考えるという志向が減っていく中で小学生から色々なものを書かせないと力はつきません。

では、時間になりました。2年生が校庭でのデモンストレーションを終えて4校時目に保護者が用意してくださったお汁粉を食べる会をやっています。お時間のある方はぜひご参加ください。講演してくださった高田さんも参加してくれます。



